

(人吉農芸学院)

【作品：本当のお父さん】

本当のお父さんじゃないのに（この言葉を何回思ってきたんだろう
六歳の時に新しい家族として父として（だけど納得できなかった
言うことを聞かなくて怒られて（本当のお父さんじゃないのに
悪いこととしてどつかれて（本当のお父さんじゃないのに
お父さんと呼ぶようになって（心では本当のお父さんじゃないのに
それでも自分も今は十九歳
どんだけ迷惑かけても反抗しても（ずっと息子のように叱って支えてくれた
何でもここまでしてくれるのか分からなかった
だけどお父さんが自分に初めて書いてくれた手紙で
お父さんが調書で自分との関係を義父と書かれること
どんだけ苦しいか辛いか考えたことなかったよ
本当のお父さんじゃないのに（お父さんが一番感じてたことなのかな
本当のお父さんを少しは分かった気がする（出院する時には本当のお父さん
として
「お父さん」と呼ぶね（そして謝るから笑って許してね

【講評】

事実を淡々と述べる上段の言葉に対して、「（ 」以下の下段の言葉は作者の心の中の言葉です。この二つがいつも根本的な疑問として作者の内面で繰り返されてきました。その対話の繰り返しをていねいに描いた良い詩です。自分の心が納得できるまで対話を続けた結果、やっとたどり着くことができました。それは「本当の」愛情を求める作者と愛を与え続けたお父さんの「本当の」努力の結果でもあります。

【講評者名】

龍 秀美